



# 『和』と『まこと』の日本精神で世界の紛争を一掃しよう！

「令和維新宣言」を掲げ、尊王愛国を柱とした保守勢力の大団団結を促すために令和3年4月に設立された自由国民連合(自国連)は、本年4月28日に1周年を迎えた。一周年記念事業として、九州ブロックの福岡支部を皮切りに、静岡県三島支部、長野県松本支部、鳥取県米子支部と自由国民連合(自国連)の目的とビジョンを全国津々浦々に伝えるための巡回講演会が5月29日から始まった。初年度は本部の組織編成などに時間を要したが、支部組織あつての改革運動であり、支部活動の活性化が組織を強化し、運動の強い推進力となる各支部の強い要請を受けたもので、自国連の理念強化の講演会が全国で開催することになった。

## 『日本再興』全国巡回始まる

5月29日の福岡支部、5月31日の三島支部、6月11日の松本支部、6月12日の米子支部での講演会が集い、成功裏に終了した。福岡支部では熊本県など遠方からも会員が駆けつけたほか、長年共産主義との戦いの最前線で歩んだ同志



福岡支部講演会



三島支部講演会

が数十年ぶりに再会するなど、会の三島支部、6月11日の松本支部、6月12日の米子支部での講演会が集い、成功裏に終了した。福岡支部では熊本県など遠方からも会員が駆けつけたほか、長年共産主義との戦いの最前線で歩んだ同志

が数十年ぶりに再会するなど、会の三島支部、6月11日の松本支部、6月12日の米子支部での講演会が集い、成功裏に終了した。福岡支部では熊本県など遠方からも会員が駆けつけたほか、長年共産主義との戦いの最前線で歩んだ同志

米子支部では、県内の遠方からも会員が参加、大いに盛り上がった。翌日は島根県太田市の市議会議員との交流会も持たれ、竹島問題などを共同で取り組むなどで市議と自国連との合意が得られた。

という方向性を民主主義に与える必要があり、その根幹をなすのが神道である。世界宗教と神道の違いは明確だ。世界宗教は一神教が主流だが、神道には教祖がない。

### 心のふるさとを訪ねて私の神社巡り

西ゆかり(関東ブロック)



結につながる」と神道、日本精神の重要性を強調した。全国巡回のスローガンは「今、一つになる時!」。自国連の会員の心が一つになる時、日本の保守諸団体の心も一つに結ぶことができるはずである。さらに、『和』と『まこと』の日本精神を土台として海外の保守、民主勢力と連携

30年前、祖父母と共に靖国神社を参拝した際に、この遊就館のことを知らず祖父母に見せてあげられなかったこと、それから祖父が元気な時に様々な体験を聞いてあげなかつたことをとても悔やみました。

その後、コロナ禍が深刻化する前迄の二年近く、毎週一回靖国神社を参拝し、英霊の方々への感謝と、日本の平和と繁栄、天皇家の弥栄を祈って参りました。

私なりに理解したことは、靖国神社は国の為に命を捧げた人々を祀る神社であると共に、愛する息子や夫、兄や弟を見送り、亡くした、「岸壁の母」のような女性たちの愛情が詰まった神社だということだ。

数年前から神社に関心を持つようになり、時間を見つけては様々な神社参拝をするようになりました。神社にはそれぞれ歴史があり、意味がありますが、心のふるさとでもあると感じています。今回は神社参拝の大きなキッカケとなった靖国神社についてお話ししたいと思います。

私は、1966年に九州鹿児島県の田舎の四世代同居の家庭に生まれました。実家の仏間には高祖父の遺影と、戦死した2人の大父母の遺影が飾られていました。叔父は日中戦争に参加し、大東亜戦争突入後はいくつかの任地を経て、最後はインパール作戦に参加。後に捕虜として一年を過ごし、生きて帰って来た明治生まれの寡黙でとても強い人でした。

ルトプリンセサにて終戦の半年前に戦死。享年27才、独身でした。高校まで実家で生活していましたが、祖父からは戦争当時の話しを聞いたことはほとんどありませんでした。曾祖父が存命の時には大祖父の妻で、帰国後再婚された夫人が年に数回曾祖父を訪ねて来た記憶があります。幼い頃から時々我が家を訪問して下さる物静かで品の有るその夫人が大好きでしたが、当時はその夫人がどんな苦勞をされたかなど、知る由もありませんでした。

私は18才で上京し、21才の頃、祖父母を東京に招き、共に皇居や靖国神社を案内しました。子供の頃から演歌好きな家族で、「岩壁の母」や「九段の母」を歌う事が出来ました。当時は、祖父母孝行の為の参拝で、余り深く靖国神社参拝の意味やその価値を知らずにいて、その後靖国神社に参拝することはありませんでした。

大東亜戦争で散華された人々の冥福を祈っていると、崩御された昭和天皇に対する英霊たちの思いと同時に、昭和天皇の英霊と日本国民に対する愛に満ちた大御心を感じました。

その後、韓国旅行から帰って来た後、友人と一緒に靖国神社を参拝し、その敷地に立つ遊就館を初めて見学しました。館内に展示されている達筆な文字で綴られた英霊の方々の手紙や沢山のご遺影、遺族の方々や兄弟の為に贈られた逝った息子や兄弟の為に贈られた花嫁人形に大きな衝撃を受けました。館内には零戦の他に人間魚雷と呼ばれた「回天」も展示されているのです。

そうした展示品を見ながら、これまでの自身の人生と、英霊の生き様を垣間見ながらとても申し訳ない思いになりました。そして

我知らず心の重荷を背負って参拝すると、多数の英霊やその英霊を想う女性の方々の愛情が時空を超えて私の重荷を取り去って下さっているように感じました。靖国神社参拝で英霊に感謝を捧げに行くと、いつも心の底から「ありがとう」の言葉が出てくるのです。

同氏は、『お天道様が見ている』という神仏を中心とした概念を取り入れ、『天の願いはどこにあるのか』

争解決には限界がある」と指摘。「今こそ、古来より豊かな瑞穂の国に育まれた『和』と『まこと』の精神を復興させる必要がある」と日本精神復興が紛争解決のカギであるとの見識を示した。

戦死した大祖父の一人は満州で終戦の前日、見回りに出たきり戻って来ることはありませんでした。享年32才。大祖父には妻と三人の子供がいましたが、戦後の混乱の最中の帰国の途中で幼い子供二人は亡くなってしまいました。

もう一人の大祖父は佐世保海兵団に入団し、ハワイ海戦、ミッドウェイ海戦の他、太平洋での海戦に参加、最後はフィリピンのプエ

ところが、あるキッカケで靖国神社の存在意義を知り、2018年5月に30年ぶりに靖国神社を参拝したのです。その時、靖国に眠